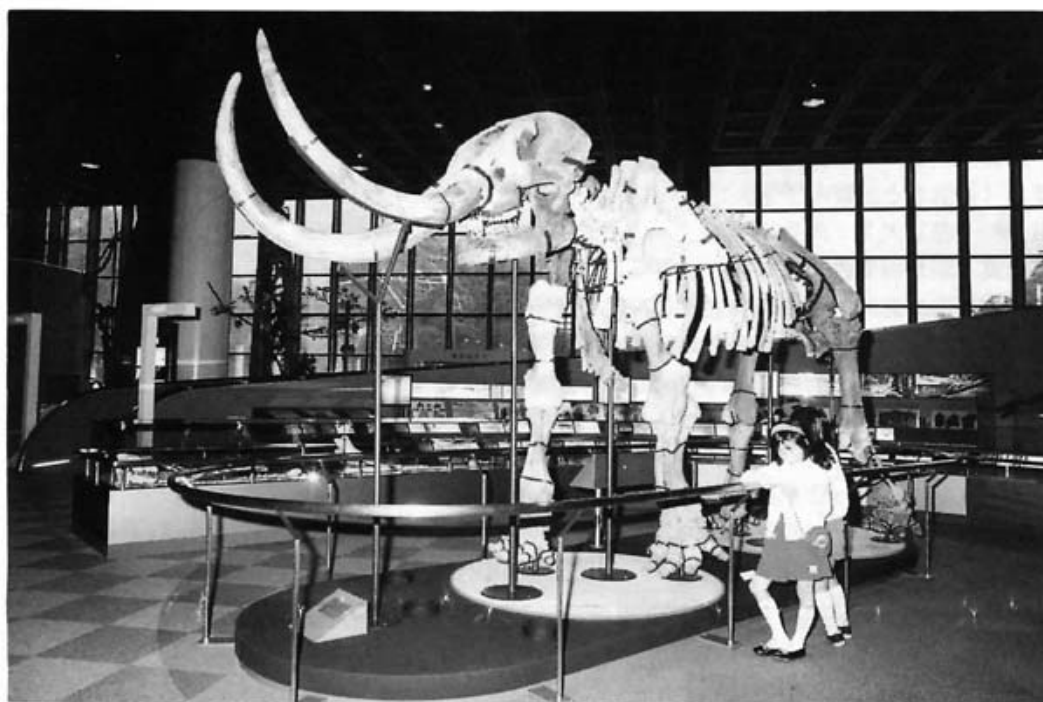


QR Newsletter

第四紀通信

Vol.1 No.2, 1994



「兵庫県立 人と自然の博物館」アメリカマストドン
博物館紹介参照

Vol.1 No.2

April 20, 1994

| | | | |
|-------------------|---|------------|---|
| 第四紀学会1994年大会のお知らせ | 2 | 関連学会の最近の動き | 7 |
| 博物館紹介 | 5 | 研究者の募集について | 7 |
| 博物館見学会のお知らせ | 6 | 国際集会のご案内 | 8 |
| 第四紀学会講習会のお知らせ | 6 | 学会記事 | 9 |

■日本第四紀学会 1994年大会（総会・研究発表会）〔第2報〕

1. 日 程

- 1994年8月26日(金) 一般研究発表
 8月27日(土) 一般研究発表・総会 [終了後:懇親会]
 8月28日(日) シンポジウム
 8月29日(月)・30日(火) 巡 検

2. 会 場

東京都立大学(〒192-03 八王子市南大沢1-1, 京王相模原線南大沢駅下車, 駅前)
 大会準備委員長: 町田 洋 (東京都立大学理学部地理学教室)

3. シンポジウム

- テーマ: 「高精度年代測定と第四紀研究」
 オーガナイザー: 町田 洋 (都立大学)・大村明雄 (金沢大)
 日 時: 8月28日(日) 9時30分~17時30分
 プログラム(発表者と分野の予定)
 町田 洋 (都立大): 趣旨説明
 光谷拓実 (奈良国立古文化財研): 年輪年代学
 福沢仁之 (都立大): 天然の時計としての湖底堆積物
 藤井理行 (極地研): アイスコアの年代と古環境
 柏谷健二 (金沢大): Orbital chronostratigraphy
 高山俊昭 (金沢大): ナノ化石による第四紀の datum plane とその問題点
 大村明雄 (金沢大): Uシリーズ年代測定
 高島 動 (秋田大): TL年代測定
 中村俊夫 (名古屋大): 加速器質量分析法(AMS)によるC-14年代
 檀原 徹 (京都フィッシュントラック): FT/ITPFT年代測定
 池田すみ子 (地質調査所): ESR年代測定
 板谷徹丸 (岡山理科大): K/Ar, Ar/Ar年代測定とB/M境界
 総合討論

4. 巡 検

- テーマ: 「伊豆半島北端部プレート衝突域の第四紀地史」
 案内者: 山崎晴雄・町田 洋 (都立大)・水野清秀 (地質調査所)
 地形図: 20万分の1 東京, 横須賀, 甲府, 静岡 (巡検地域全体)
 2万5千分の1 平塚, 秦野, 小田原北部, 伊勢原, 山北, 駿河小山, 御殿場, 吉原, 蒲原, 入山瀬, 富士宮
 日 程: 8月29日(月)~30日(火) 1泊2日 (バス使用)
 29日 田園都市線南町田駅発→東名・小田原厚木道路にて大磯丘陵へ→大磯丘陵の第四系と地殻変動
 (東部, 曾我山砂利採取場, 丹沢川)→松田山または大野山→駿河小山付近の第四系→(泊)
 30日 駿河小山発→御殿場→東名高速にて富士→富士山南西麓地域(羽鰯および蒲原丘陵)の活断層と地殻
 変動→新幹線新富士駅着→横浜線・田園都市線長津田駅着
 集 合: 8月29日(月) 8時30分 <場所> 田園都市線南町田駅前
 宿泊場所: 小山町ワサビ平 企業研修施設
 解 散: 8月30日(火) 新幹線新富士駅 16時30分, 横浜線・田園都市線長津田駅 19時30分頃

費用：概算20,000円（宿泊費+バス使用料）

募集定員：25名

申込方法：参加を御希望の方は、ハガキまたはFAXで6月20日までに、氏名・性別・所属・連絡先（住所、電話、FAX番号）を明記して下記宛お申し込み下さい。先着順に受け付けます。参加費は申し込み締切後に通知しますが、原則として参加費はお返しできませんので、あらかじめ御承知おき下さい。

申込先：〒192-03 八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学部地理学教室 山崎晴雄 へて
（ハガキでお申し込みの場合、「巡検」と朱書して下さい。FAX 0426-77-2589）

5. 講演要旨集の申し込み

今大会では予約販売をいたしません。大会当日にお求め下さい。

6. 一般研究発表

一般研究発表・ポスターセッションでの発表を希望される方は、綴じ込んである用紙（A片）に所定の事項を記入のうえ、5月16日（月）までにお申し込み下さい。講演要旨集の原稿用紙をお送りいたします。一般研究発表・ポスターセッションを合わせて1人1件です。発表時間を厳守していただくために、スライド・OHPとも8枚に限らせていただきます（両方使用する場合は、合わせて8枚）。十分な討論時間を希望する方には、ポスターセッションへの申し込みをお勧めいたします。一般研究発表・ポスターセッションともに講演要旨集に2ページ、シンポジウムは4ページ執筆していただきます。なお、講演要旨原稿の行事委員会への到着をもって、正式な発表申し込み受付といたします。講演要旨集の原稿締切は5月27日（金）（必着）です。

講演要旨集の原稿用紙の申込先

〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学教育学部地理学教室内
第四紀学会行事委 齊藤享治 へて（048-858-3195）

7. 宿泊施設

本大会では、参加者のための宿泊施設の斡旋はいたしません。会場の都立大学キャンパスは、東京西方の郊外にあり、都心（新宿）から京王線で約45分かかります。大学の周辺には宿泊の施設はありませんが、比較的近くには以下のような施設（ビジネスホテルなど）がありますので、なるべく早めに宿泊予約をされるようお勧めします。なお、宿舍最寄りの各駅から南大沢駅までの電車の所用時間は、おおよそ次の通りです。

多摩センター=6分、橋本=5分、八王子=20分、調布=18分。

| 名称 | 最寄り駅 | 宿泊料金（1泊） | 電話 |
|-------------|-------------------|------------------------|--------------|
| 京王プラザホテル多摩 | 多摩センター（南口下車徒歩1分） | S*9,000-9,500 T*17,500 | 0423-74-0111 |
| （厚）サンピア多摩 | 多摩センター（南口下車徒歩10分） | S*5,700 T*9,900 | 0423-76-8511 |
| 橋本シティーホテル | 橋本（北口徒歩3分） | S 6,500-6,900 T 10,500 | 0427-74-8100 |
| 千代田ホテル | 八王子（北口徒歩3分） | S 6,500 T 11,000 | 0426-24-3281 |
| ビジネスホテルヤマジ | 八王子（北口徒歩2分） | S 4,500-5,500 T 11,000 | 0426-42-9111 |
| ビジネスホテルツカモト | 八王子（北口徒歩1分） | S 6,500 T 11,000 | 0426-25-9861 |
| セントラルホテル八王子 | 八王子（南口徒歩9分） | S*6,500 T*12,300 | 0426-25-1311 |
| 調布クレストンホテル | 調布（北口駅前） | S*9,700 T*14,500 | 0424-89-5000 |
| サバーブインアネックス | 調布（南口下車徒歩1分） | S 9,500 | 0424-85-1171 |
| 調布ホテル | 調布（南口下車徒歩3分） | S 6,800 | 0424-82-3276 |

（注）料金は宿泊のみ、Sはシングル、Tはツイン、*印はサービス料・税金は別となっています。

8. 問い合わせ先

シンポジウム関係 町田 洋（都立大） TEL 0426-77-2593 FAX 0426-77-2589
巡検関係 山崎晴雄（都立大） TEL 0426-77-2592 FAX 0426-77-2589
一般研究発表関係 齊藤享治（埼玉大） TEL 048-858-3195 FAX 048-858-3690（地理 齊藤へて）

（行事担当幹事）

講演要旨集の原稿用紙の申し込みについて

講演要旨集の原稿用紙は、5月16日(月)までに、A片を添えて申し込んで下さい。A片は、そのまま発送に使用しますので、楷書でわかりやすく書いて下さい。(A片・B片とも、コピーでも結構です)

| | | |
|--|----|---|
| 送り先 | 〒 | A |
| | 住 | |
| | 氏名 | |
| 発送人 〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学教育学部地理学教室内 日本第四紀学会行事委員会 | | |

(きりとり線)

発表申し込みについて

講演要旨集の原稿用紙はB片を添えて、5月27日(金)までにお送り下さい。

[送り先] 〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学教育学部地理学教室内
 第四紀学会行事委 齊藤享治 あて

講演要旨集の原稿用紙の到着をもって、正式な発表申込の受付といたします。

B片の書き方については、記入例に従って、氏名(所属)：題目を、1マスごとに記入して下さい。連名の場合は、口答発表者名に*印を付けて下さい。発表申し込み用紙がそのままプログラムの原稿になりますので、講演要旨集の原稿の記載と一致しているかどうか確認して下さい。

B片記入例

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 四 | 紀 | 花 | 子 | (| 〇 | 〇 | 大 |) | : | 火 | 山 | 灰 | の | 編 | 年 | 学 | 的 | 研 | 究 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

(きりとり線)

発表申し込み用紙

B

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|----------------|--|--|--|--|--|--------------------|--|--|-----|--|--|---------------|--|--|--|--|--|--|--|
| 氏名(所属) : 題目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発表内容 (簡単に書いて下さい。講演要旨集には載りません。) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 連絡先 | 〒 | | | | | | | | | TEL | | | | | | | | | | |
| 発表の種類 (○をつける) | 一般研究発表 | | | | | | ポスターセッション | | | | | | シンポジウム | | | | | | | |
| スライド・OHPの使用 (○をつける) | スライド (8枚以内) | | | | | | スライド+OHA (8枚以内) | | | | | | OHP (8枚以内) | | | | | | | |

佐藤裕司（兵庫県立人と自然の博物館）

「人と自然の博物館」は、人と自然の共生する社会の実現に寄与することを目的として、平成4年10月に神戸三田国際公園都市フラワータウンの中心部にオープンしました。

当館は一般の来館者を対象とした展示のほかに、学術交流、データベース、ジーンバンク、シンクタンクなどさまざまな機能を備えています。さらに、研究機能をより充実させる目的で、県立姫路工業大学附置「自然・環境科学研究所」が館内に併設され、博物館と大学附置研究所との研究活動の一体化が図られています。

博物館の組織は館長のもとに、次長（事務系・研究系）、総務課、普及課、情報管理室および研究部から成ります。研究部は5部門にわかれ、平成6年3月現在で36名の研究員が常駐し、このうち25名が博物館研究員と研究所の教官を兼ねるといった構成をとっています。

常設展示は3階から1階にかけて、5つのテーマにわけて展示されています。3階では、「I.兵庫の自然誌」と題し、兵庫県の特色ある自然を大型パネル、映像、ジオラマなどで紹介しています。つづく「II.人と自然」では、過去から現在まで人は自然とどうかかわってきたかを紹介し、さらに「III.新しい文化」では、これからの人と自然のつきあい方を提案しています。2階の「IV.生物の世界」では、河川で展開される生物の営みと多様な生物世界の成り立ちを紹介しています。1階は「V.地球、生命と大地」と題し、熱帯雨林に特徴的なフタバガキ科の板根などで世界の森を紹介する一方で、巨大なアメリカマストドンをはじめとして、多くの化石や岩石・鉱物をもとに、生命と大地の歴史をたどっています。この

ほか、3階には地球規模の環境問題などを上映するアースシアター、1階にはプレートテクトニクスを紹介するグローバルビジョンがあります。

4階の情報センターでは、兵庫の自然や生物の暮らしなどをビデオで楽しめると同時に、博物館の収蔵品や県下の動植物の分布、地質や景観などに関する情報を引き出すことができます。また、レファレンスルームでは、県下で一般にみられる動植物や化石の標本に加え、自然・環境に関する図書が整備され、自由に閲覧できるようになっています。

博物館本館は三田盆地に広がる高位段丘を開析する谷に整備された深田公園内にあります。谷を堰止めるダムをイメージして建設されたハーフミラー張りの建物は、日中は公園内の景色をうまく映し出しています。博物館は谷を横断するように建設されているので、建物の全体像は見えにくく、入館の際には本館と同じハーフミラー仕立てのドーム型をしたエントランスホールが唯一の目印となります。

< 博物館利用のご案内 >

- ◇開館時間： 10時～17時（入館は16時30分まで）
- ◇休館日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）、
年末年始（12/28～1/4）
- ◇観覧料： 大人 200円、大・高生 150円、中・小生 100円
- ◇交通： JR宝塚線「三田（さんだ）駅」から神戸電鉄利用で「フラワータウン駅」下車すぐ。
自家用車の場合は、中国自動車道「神戸三田I.C.」より約5分。
- ◇駐車場： 乗用車 500円（近隣商業施設と共用）



正面広場からみたエントランスホール



交通案内図

学会からのお知らせ

■ 博物館見学会のお知らせ

兵庫県立人と自然の博物館の展示および施設見学会を下記のとおり企画しました。この機会に、ぜひご参加下さい。

日 時：1994年6月12日（日） 午後1時集合

場 所：兵庫県立 人と自然の博物館（三田市弥生が丘6丁目）

参加希望者はエントランスホールにお集り下さい。

交 通：JR宝塚線「三田（さんだ）駅」から神戸電鉄利用で「フラワータウン駅」下車すぐ。

自家用車の場合は、中国自動車道「神戸三田 I.C.」より約5分。

（但し、駐車場は近隣施設と共用のため有料です。）

お問い合わせ：兵庫県立人と自然の博物館 地球科学研究部（担当；佐藤，加藤）

TEL 0795-59-2001（代表），59-2017（直通）

FAX 0795-59-2007

（行事担当幹事）

■ 第1回第四紀学会講習会のお知らせ

第1回日本第四紀学会講習会を下記の予定で実施します。会員の皆様には、今回の講習会のテーマ（変動地形活断層）に関心をお持ちの学生、院生、一般社会人の方々に広くお呼びかけ下さいますようお願い申し上げます。

テーマ：変動地形（活断層）の研究手法

開催地：岐阜県恵那郡坂下町（阿寺断層）

日 程：1994年8月17日（水）～19日（金）（2泊3日）

内 容：阿寺断層による累積的な断層変位が観察できる坂下付近の段丘を題材として、段丘や活断層などの野外および室内研究方法を講習する。

募集人数：25人程度（応募者多数の場合は抽選による）

参加費：13,000円（宿泊代・昼食代など）

講 師：佃 栄吉・栗田泰夫（地質調査所）

申し込み：参加を希望される方は、はがきに氏名・年令・性別・所属・連絡先を明記して、下記の企画担当幹事宛、お申し込み下さい。（申し込み締切り：5月31日）

問い合わせ先：〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所環境地質部 杉山雄一

TEL 0298-54-3694, FAX 0298-54-3533, 52-3461

■ 第四紀学会講習会について

第四紀学会では本会創立40周年記念事業の一環として、第四紀学の普及と若手研究者の養成を目的とする講習会の制度を設け、今後、年に1～2回、講習会を行うことになりました。

講習会では、第四紀関連の研究テーマを取り上げ、研究方法の基礎を手ほどきします。また、参加者に第四紀学の面白さを実感していただけるよう、できるだけ現地（野外）での講習を取り入れたいと思います。

講習会のテーマや内容については、大学院生などの若手研究者をメンバーとする講習会実行委員会を作りそこで企画・立案して行きたいと考えています。

講習会の案内は本誌（第四紀通信）に掲載するほか（上記参照）、第四紀関連の教室のある大学や第四紀関連業務を行っている企業などにポスターをお送りして、広く参加者を募る予定です。

（企画担当幹事）

「自然史科学の振興に関する提言」について

第四紀学会会長 相馬寛吉

日本学術会議古生物学研究連絡委員会より表記の提言があり、あわせて自然史科学振興に関するアンケートが当学会代表者宛にあった。これについて広く会員の意見を伺う機会がなかったので、幹事会に計ったところ、会長が関係者の意見を集約して返答することになりました。

アンケートへの返答の趣旨は、

1) 我国の自然史科学研究・教育体制の現状は非常に不十分な状態であること、

2) そのような状態を打開するためには「自然史科学学会連合（仮称）」のような組織を作り、積極的な活動をすることに賛成する、

3) この目的のためにシンポジウムや意見交換の場を作ることに賛成であり、その際には当学会として積極的に参加する意向がある、等です。

なお、表記提言の概略を下記に掲載いたします。

資料

自然史科学の振興に関する提言

平成5年7月5日

日本第四紀学会御中

日本学術会議古生物学研究連絡委員会
委員長 速水 格

初夏の候、御会におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、日本学術会議の当研究連絡委員会におきましては、劣悪な自然史研究・教育環境の現状に鑑み、日本古生物学会（会長：猪郷久義 筑波大学教授）とも密接に協力して、改善への道を模索して参りました結果、抜本的な改善には同様の状況下にある自然史科学諸分野の研究団体の一致協力がぜひ必要であるとの結論に達しました。

ここ数年、大学関係者などの努力により、基礎科学研究・教育の重要性が見直されて、荒廃していた国立大学などの抜本的な改革や整備が始まっています。しかし、自然史（特に生物系の自然史）に関しては、研究・教育の態勢や拠点などについて改善策や確固たる見通しがまだほとんど立っていないように思われます。

当研究連絡委員会では、この種の問題について慎重討議いたしました結果、自然史科学に関連の深い研究連絡委員会が世話役になり、関連研究団体の間で密接な情報交換を行って、共通する要望事項をまとめ、一致して新しい時代の自然史科学振興を図ること、つまり「自然史科学連合（仮称）」を設けてはどうかということになりました。

各研究団体におかれましては、それぞれ異なった事情があり、また自然史研究者は会員の一部に過ぎない場合もあると思いますが、別紙の趣意書およびできれば参考資料「古生物学研究教育の現状と課題」をお読みいただき、この提言に対して忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

通産省工業技術院研究所の研究者の募集について

工業技術院の全国15の研究所では次のとおり研究者を募集しています。募集内容の詳細については下記までお問い合わせください。

募集人員：約30名

募集分野：化学、物理、電子、機械など

応募資格：博士課程修了者または見込み（学位取得可能な者）、かつ昭和36年4月2日以降生まれの者
提出書類：履歴書、学部修士博士それぞれの修了および成績証明書、修士および博士論文の要約、

研究業績 2-3点の要約

公募の締切：平成6年7月31日

選考方法：提出書類をもとに8月から9月上旬に採用予定の各研究所で行なう予備審査と10月上旬に行なう最終審査を実施して候補者を決定。

採用予定日：平成7年4月1日

書類提出先：希望する研究所へ直接提出

連絡先：筑波研究支援総合事務所 研究企画調整室

TEL 0298-54-2170 FAX 0298-55-3833

<1994年開催の国際集会>--Vol. 1 No. 1からの続き

■ Geochronology, Cosmochronology and Isotope Geology (ICOG-8)

期日と場所：5-11, June, 1994. Berkeley California, U.S.A.

連絡先：Garniss H. Curtis, Institute of Human Origins-Geochronology Center, 2453 Ridge Road, Berkeley, CA 94709, U.S.A.
Tel 415-845-4003 Fax 415-845-9453

■ 15th International Congress of Soil Science

期日と場所：10-16 July, 1994. Acapulco, Guerrero, Mexico

連絡先：Dr. Roberto Nulez, Colegio de Postgraduados, Centro de Edafologia, Km 34, Carretera Mexico-Texcoco, Montecillo, C.P. 56230, Mexico

Tel 52-595-557-1 Fax 52-595-4-57-23

■ 15th International Radiocarbon Conference

期日と場所：15-19, August, 1994. Glasgow, UK

連絡先：Department of Statistics, University of Glasgow, Glasgow, G12 8QW, Scotland, UK

Tel 44-41-339-8855 x5024 Fax 44-41-330-5094, e-mail Gata24@UK.AC.Glagow.VME

■ 14th International Sedimentological Congress

期日と場所：21-26 August, 1994. Recife, Brazil

連絡先：Caixa Postal 7801 Cidades Universitaria, 50739 Recife PE Brazil

Tel 081-271-82-40

■ Science and Archaeology: A Multi-Disciplinary Approach to Studying the Past

期日と場所：16-18 September, 1994. Cambridge, MA, U.S.A.

連絡先：Robert H. Tykot, Archaeometry Laboratories, Harvard University, Cambridge, MA 02138, U.S.A.

Tel 617-496-8991, Fax 617-495-8925, e-mail Tykot@HUSC4.Harvard.Edu.

■ Third World Archaeology Congress

期日と場所：4-11, December, 1994. New Delhi, India

連絡先：Shri M.C. Joshi, Director General, Archaeological Survey of India, Janpath, New Delhi 110011, India

Tel 91-11-3014821, Fax 91-11-3019821

<1995年開催の国際集会>

■ GEOSAS- II, Second South Asia Geological Congress

期日と場所：20-25 February, 1995, Colombo, Sri Lanka

連絡先：GEOSAS Secretariat, NARA Crow Island, Mattakuliya, Colombo 15, Sri Lanka,

Tel 941-522008, Fax 941-522932

アブストラクトの締め切り：31 December, 1993

■ 4th International Conference on the Evolution of the East Asian Environment

期日と場所：3-7, January, 1995, Hong Kong

連絡先：4th International Conference on the Evolution of the East Asian Environment Secretariat,

Center of Asian Studies, The University of Hong Kong, Pokfulam Road, Hong Kong, FAX 852-559-5884

アブストラクトの締切：1, September, 1994

■ GEOSAS- II, Second South Asia Geological Congress

期日と場所：20-25, February, 1995, Colombo, Sri Lanka

連絡先：GEOSAS Secretariat, NARA Crow Island, Mattakuliya, Colombo 15, Sri Lanka,

Tel 941-522008, Fax 941-522932

学会記事

評議員会議事録（1993年度第2回）

日時：1994年1月22日，11：00～12：30

場所：東京都立大学

議長：小野有吾

出席者：相馬寛吉（会長），池田安隆，上杉 陽，大野正男，大森昌衛，小田静夫，小野有吾，織笠 昭，川辺孝幸，熊井久雄，熊木洋太，小池裕子，小泉武栄，斉藤亨治，坂上寛一，清水康守，末永和幸，杉山雄一，田村俊和，辻誠一郎，陶野郁雄，中村俊夫，楡井久，羽鳥謙三，松下まり子，松島義章，松田時彦（以上評議員），松井 健，吉川虎雄（以上会長経験者）；委任状14通。

報告事項

1. 1993年度事業中間報告

1-1. 庶務委員会

(1) 学術会議第16期会員候補者（1名）との推薦人（2名）を，評議員による投票で決めた：会員候補者一米倉伸之；推薦人一菊地隆男・遠藤邦彦；推薦人予備者一上杉 陽。

(2) 学会保存図書の一部を横浜国立大学から都留文科大学に移転した。

(3) 日本第四紀学会・小野 昭・春成秀爾・小田静夫（編）「図解・日本の人類遺跡」（東京大学出版会発行）が，第2回雄山閣考古学賞を受賞した。

1-2. 編集委員会

「第四紀研究」の編集状況が報告された。1993年8月以降の投稿状況は以下のとおりである（括弧内は受理済み原稿数）：現著論文13編（6），短報6編（3），講座1編（1），資料2編（0）。

1-3. 行事委員会

(1) 1993年度大会を福岡市博物館で開催した。

大会準備委員長：松田時彦

日程：8月27日 一般研究発表・懇親会

8月28日 一般研究発表・総会

8月29日 シンポジウム「東アジアと日本の遺跡をめぐる古環境」（オーガナイザー：海津正倫・磯望・高倉洋彰）

8月30～31日 巡検「北部九州沿岸の弥生時代文化と自然環境」（案内者：杉山富雄・下山正一）。

(2) 日本第四紀学会講演会「モンスーンアジアの古水文変動の復元に向けて」

を1994年1月22日，東京都立大学で開催したプログラム：

門村 浩（東京都立大）：古水文変動の復元に向けて；
主旨説明

田村俊和（東北大）・宮城豊彦（東北学院大）・小岩直人（東北大）：モンスーンアジアの古水文環境変動復元への斜面堆積物の活用

小野有吾（北大）：氷河・周氷河地形から見たモンスーンアジアの古水文環境

須貝俊彦（東大）：段丘堆積物による古水文環境復元
小口 高（東大）：移動土砂量による古水文環境復元

(3) 1994年度大会およびシンポジウムの予定は以下のとおりである：

会場：東京都立大学

大会準備委員長：町田 洋

日程：8月27日 一般研究発表

8月27日 一般研究発表・総会・懇親会

8月27日 シンポジウム「高精度年代決定と第四紀編年」（オーガナイザー：町田 洋・大村明雄）

8月27～31日 巡検「伊豆半島北端部プレート衝突域の第四紀」（案内者：山崎晴雄・水野清秀）。

1-4. 企画委員会

昨夏の評議員会において，40周年記念事業のなかで再企画することを承認された「テフラ標準土層集」については，上杉幹事長を中心にさらに検討を進めている。

1-5. 会報委員会

会報検討委員会を1993年9月18日および11月13日の2回開催し，以下の事項を検討した。

(1) 会報の名称は「第四紀通信」（英文名称：QR News Letter）とする。発行回数は当面年4回とし，大きさはB4版，1号あたり8ページを標準とする。

(2) 掲載記事は：会告，大会等の案内，学会記事（評議員会・幹事会報告等），会員移動，雑報，研究委員会報告，書評，国際会議・シンポジウム案内，日本学術会議だより，博物館案内，奨励金・人事公募案内等とする。

1-6. 渉外および国際委員会

(1) 1995年INQUA大会を始めとする各種国際会議案内を会報に掲載した。

(2) Hongkong大学から刊行されている抄録誌のための資料として，「第四紀研究」を32巻から寄贈することとした。

1-7. 特別刊行物企画編集委員会

特別刊行物の企画5つのうち，「日本の人類遺跡」と

「第四紀試料分析法」は既に刊行された。「日本第四紀層序集」はまもなく刊行の予定。「第四紀研究アブストラクト集」と「第四紀年代データベース」は、それぞれ1994年5月と8月までに刊行の予定である。

2. 1993年度会計中間報告

1993年12月31日現在の収支試算表が示され、以下の点について報告された。

(1) 郵便料金の値上げと、会報のページ増により、当初予算より若干の支出増が見込まれる。

(2) 海外会員の会費値上げを行わなかったが、今年度分については据置とする。

(3) 団体会員を増やす努力を行いたい。

審議事項

1. 会則および役員選挙規定の改正について
前期の選挙管理委員会（委員長：熊木洋太）より、会則および役員選挙規定の一部に以下のような不備があることが指摘されていた：(1) ある会員の得票が共通分野と専門分野とに分散した場合、合計では相当数の得票を得てもどちらの分野でも当選しない可能性がある；(2) 会則10条は、会長経験者に被選挙権のみならず選挙権もないと解釈しうる。幹事会はこの指摘に基づき、改正案を提案した。この改正案を若干の修正を加えて次回総会に計ることが了承された。

2. 内規（紙碑等の規定）の制定について
逝去会員に対する詩碑等の規定（内規）案が提案された。原案は、対象会員の区分について不明確な部分があるということで、再度検討して次回評議員会に計ることになった。

3. 学会賞創設について
最近の評議員会において学会賞を新設せよとの要望が寄せられていることを受けて、幹事会は本会創立40周年を契機に学会賞の創設を検討することを決め、素案が提案された。基本的には学会賞創設を実現する方向でさらに検討することとなった。

4. 講習会の実施について
創立40周年記念事業の一環として、第四紀学の普及と会員獲得を目的とする講習会を実施することが提案され、承認された。1994年夏に第1回の講習会を実施すべく準備を進めることになった。

5. 1995年度大会開催地について
1995年度大会を新潟大学で開催することが提案され、承認された。

幹事会議事録

日時： 1994年3月5日

場所： 東京大学理学部地理学教室

出席者： 相馬寛吉（会長）、鎮西清高（副会長）、上杉 陽、熊井久雄、斉藤亨治、坂上寛一、杉山雄一、池田安隆（以上幹事）、村上聡（学会センター）

1. 庶務

(1) 第10回ESR応用計測研究会—イメージングの手法の発展と学際領域への応用—に協賛学会となることを承諾した。

(2) 学術会議第16期会員候補者（米倉伸之）、推薦人（遠藤邦彦・菊地隆男）、および推薦人予備者（上杉 陽）の届出を行った。

2. 編集

(1) 「第四紀研究」の編集状況は以下のとおりである：33巻1号は現在再稿が出ている；33巻2号は既に受理済みの原著論文3編、短報2編を掲載予定；33巻3号は既に受理済みの原著論文2編、講座1編を掲載予定。現在査読中の原稿は、原著論文6編、短報4編、資料2編、討論1編である。

(2) 14C年代だけを報告した論文を今後資料として掲載すべきか否かを検討した。

3. 行事

(1) 1994年度大会（東京都立大学）の準備を進めている。講演申込締切りは5月中旬とする予定である。

(2) 博物館施設見学会を兵庫県立「人と自然の博物館」において1994年6月に開催する。日程はまだ調整中である。

(3) 1996年度以降の大会開催地について検討した。

4. 会計

(1) 郵便料金値上げに伴う支出増は、概算の結果予算内に収まる見込みである。

(2) 特別講演会の講師等への旅費支給について検討を行った。

5. 会報

(1) 「第四紀通信」Vol.1は、当初の予定どおり4号発行するが、頁数は必要に応じて増やす方針である。

(2) 会報委員会を発足する。現在、九州大学・鹿島薫氏に委員を依頼した。今後増員する予定である。

6. 企画

学会賞創設について検討した。今回の検討結果の骨子は以下のとおりであるが、次回総会での提案に向けて引き続き検討を重ねることとなった：名称は「第四紀学会論文賞」とし、「第四紀研究」に掲載された論文

（原著論文および短報）の中から年1-2編を選ぶ；受賞者の年齢制限は行わないが、若手研究者を優先する；選考委員は5名程度とし、会長が推薦し評議員会の承認を得る。

7. その他

幹事会の継続検討課題となっている「テフラ標準土層集」の企画について、上杉幹事長が関係者の意見を集め、それに基づいて2つの暫定案が提案された。1つは、テフラを中心とした第四紀の重要露頭集であり、広域テフラの模式露頭の設定と重要な消滅露頭の記録を主たる目的とする。もう1つは、global change のなかで日本の第四紀環境変遷を位置付けることを目的とするもので、テフラ層序を骨子として日本の環境変遷を時代毎に記載するという企画である。幹事会で検討した結果、後者は学会の企画としてはなじまないで、前者を実現する方向でさらに検討を続けることになった。

